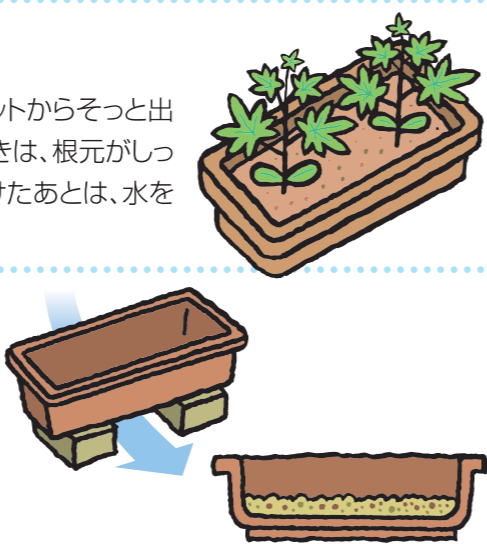


2 苗の植えつけ

プランターに移す

本葉が3~5枚になったら、根元の土をくずさないようにポットからそっと出して、間隔をあけてプランターに植え替えます。苗を選ぶときは、根元がしっかり太く、すんぐりむっくりしたものを選びましょう。植え付けたあとは、水をたっぷりあげてください。

プランターの底には、鉢底石や軽石などを敷くと、水はけをよくし、根ぐされを防げます。根が喜ぶ土の深さは30cmほど。土をほぐしながらふんわりとなるように入れましょう。(設置場所がアスファルトやコンクリートの場合は、地面に直かに置かずに、ブロックや木、発泡スチロール等の台の上に置いたり、土の上にワラや腐葉土などを敷いておくと土の乾燥を防げます。)



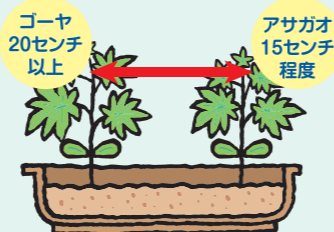
プランターと土選びがポイント!

プランターの大きさと植え付けの間隔

プランターは、できるだけ大きめのものを用意します。特に、ゴーヤは、夏場に大量の水を根から吸い上げるので、土の量が少ないとすぐに土が乾いてしまいます。小さいプランターでは、作物の生育後半に根づまりを起こして勢いが衰え、病気にもかかりやすくなります。

ゴーヤの場合、1苗あたり20~25リットル(大きめの培養土1袋分)の土があることがのぞましいです。例えば、30リットルの深型標準プランターでは1苗、50リットルの大型菜園プランターでは2苗植え(間隔20cm以上)がよいでしょう。地植えの場合は、プランターより生育が旺盛になるので、ゴーヤなら50cm間隔位で植えても大丈夫です。

ホームセンターなどでゴーヤ用のものがあるのでそれを使うと失敗しないよ♪



水やりは段階的に

水やりは生育段階に合わせてあげましょう。苗が小さいうちは、水分を多くあげすぎないこと。大きく育ってきたら、朝夕2回、たっぷり。プランターの底から流れ出るぐらいに水をあげましょう。雨水や米のとぎ汁を使うと、環境にもやさしいですね。

植え付け後、1カ月くらい

地中にしっかりと根を張る時期なので、土の表面が乾いたら、たっぷり水をあげるようにします。プランターの場合は、底から水がしみ出るまであげます。この時期に水を与えすぎると、根が十分に張らず、土のすぐ下に集まるため、乾燥や暑さに弱くなってしまいますので、水のやりすぎにも注意してください。

生長期

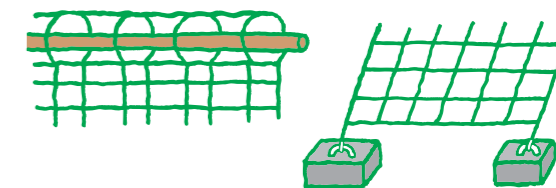
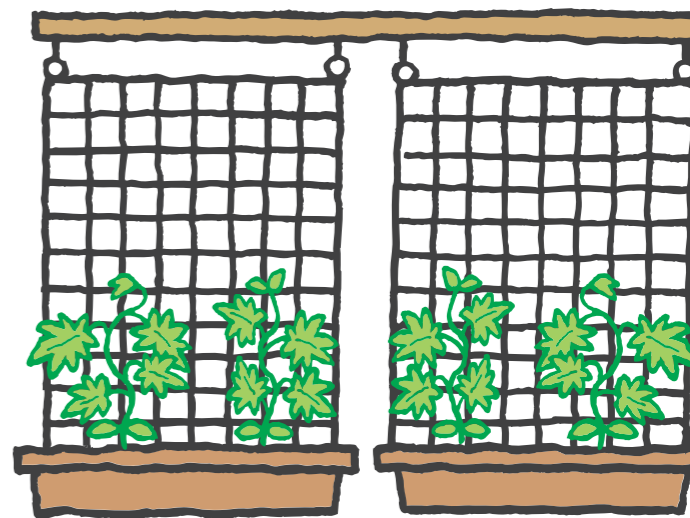
7月に入り、気温が高くなってきたら、1日1回、朝か夕方あたりにたっぷりの水をあげます。猛暑時には、朝・夕2回の水やりが必要になることもあります。水分不足で葉が垂れて元気がないときは、昼間でもたっぷり水をあげてください。



割り箸で土をほりかえし、土の状態を時々確認しましょう。

ネット張り 5月~6月頃

つるが伸びる前にネットを張ります。ネットの上部は、階上のベランダの柵や手すり、軒先につけたフックなどにしっかり結びつけましょう。下部は、地面の場合は杭を打つか、そうでない場合はコンクリートブロックやプランターを重しに使用して、しっかり固定します。ネットは、風でゆれないようにピンと張るのが良好な生育のポイントです。緑のカーテンは、窓だけでなく周囲の壁や地面にも日陰を作り、放射熱をやわらげます。日陰が多くできるようにプランターと窓との距離を離すなど、設置場所も工夫しましょう。



ネットと窓の間にはすき間をつくり、風が通るようにすればより効果的です。

約30kgにもなる、緑のカーテン!

180cm×180cmのネットに緑のカーテンが生い茂り、実ができると、その総重量は約30~40kgにもなります。さらに風が吹くとその分の荷重もかかってくるので、しっかり設置することが大切です。軒先のフックや支柱の数を増やすなどして荷重を分散させる工夫をし、台風や強風に備えましょう。



つるの誘引(ゆういん) 6月~8月

緑のカーテンでは、特に生長期(最初の2カ月位)に、つるがネットにうまくからまって、つると葉がネット全体をおおうように、つるを誘引(伸びてほしい方向に導くこと)する必要があります。つると葉がネット全体を覆うように、ひもや園芸用のテープ・結束タイで、ゆるく結びつけ、横へ横へ導きます。つるとネットをからめるときは、ひもを8の字にしてつるとネットを結びます。結び目はゆったりと余裕を持たせておくと、つるがネットにすれて傷つきません。

